

日本古生物学会 2022 年年会・総会

2022年7月1日（金）～7月3日（日）

オンライン

ホスト校：金沢大学

***** 1. プログラム 概要 *****

7月1日（金）会場：Zoom A会場

- 【13:00–16:50】 シンポジウム「節足動物の進化学—デザインと種の超多様性」・・・ii
- 【17:05–18:15】 総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ii
- 【18:30–20:30】 オンライン懇親会・・・・・・・・・・・・・・・・・・iii

7月2日（土）会場：Zoom

- 【10:00–11:15】 一般講演 口頭発表1（A, B会場）・・・・・・・・・・iii
- 【11:30–12:45】 ランチョン小集会（A会場ブレイクアウトルーム1）・・・・・・iii
- 【12:45–13:45】 一般講演 ポスター発表コアタイム（B会場）・・・・・・iv
- 【14:00–15:30】 一般講演 口頭発表2（A, B会場）・・・・・・・・・・v
- 【16:00–17:15】 一般講演 口頭発表3（A, B会場）・・・・・・・・・・v

7月3日（日）会場：Zoom

- 【10:00–11:30】 一般講演 口頭発表4（A, B会場）・・・・・・・・・・vi
- 【13:00–14:30】 一般講演 口頭発表5（A, B会場）・・・・・・・・・・vii
- 【15:00–17:00】 普及講演会（A会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・vii

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください）・・・・・・viii

その他（Zoomの準備等）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ix

2022 年年会参加費：一般会員 5,000 円，学生会員 1,500 円，友の会会員 1,000 円，
一般非会員 6,000 円，学生非会員 2,500 円，名誉会員，高校生以下（会員・非会員問わず）
無料

2022 年年会（オンライン）は事前登録制です。参加される方は、講演の有無に関わらず、
以下のサイトにアクセスして年会専用アカウントを作成し、送られてくる参加仮受付完了
メールに記載の URL からログインして、参加登録とクレジット決済を行ってください。

<https://palaeo2022.award-con.com/LOGIN.php>

* * * * * 2. プログラム 詳細 * * * * *

7月1日（金）

【13:00-16:50】 Zoom A会場

シンポジウム「節足動物の進化学—デザインと種の超多様性」

コンビナー：神谷隆宏（金沢大）・塚越 哲（静岡大）・田中源吾（熊本大）

地球上に生息する動物（後生動物）は約 30 門からなる。節足動物門はそのうちの 1 つの門に過ぎないが、この 1 つの門の中でだけで記載された種は約 110 万種におよび、全生物種の 8 割を超える。陸と空では昆虫が、水中（海中）では甲殻類が席卷しているのである。節足動物の体構造の基本ユニットは、体節とそこから突出する二肢型付属肢という単純なものであるが、体節の増幅（連結）と融合、付属肢の特殊化と消失をへて作り出されるデザインは驚くほど多様でダイナミックなものである。地球の海（水圏）、陸から空までを席卷する節足動物の進化を理解することは、ある意味進化学の王道ともいえる。本シンポジウムでは、三葉虫、貝形虫、昆虫をとりあげ、種多様性とその背景や要因、デザイン（身体や器官の作り）の多様化の過程で生じるパターンなどがあればそれを探り、節足動物の進化に関する理解を深めたい。

13:00-13:05 趣旨説明：節足動物のデザインと種の超多様性 神谷隆宏（金沢大）

13:05-13:45 琉球列島における特異的な浅海性現生介形虫相とその成立過程
新山颯大（金沢大）

13:45-14:15 琉球列島のコガネムシ上科甲虫の多様性と系統地理 細谷忠嗣（日本大）

14:15-14:45 Variation of ostracod spermatozoa and their characteristics
—possible key to speciation—

Robin Smith (Lake Biwa Museum) & Takahiro Kamiya (Kanazawa Univ.)

【14:45-15:00】—休憩—

15:00-15:30 起源的なハチ目（ナギナタハバチ科）における産卵管の初期進化
大山 望・前田晴良（九州大）

15:30-16:00 三葉虫の多様性と複眼構造—機能特性— 鈴木雄太郎（静岡大）

16:00-16:30 昆虫の翅：その由来と多様な形づくりへの貢献 大出高弘（京都大）

16:30-16:35 コンビナー コメント 田中源吾（熊本大）

16:35-16:50 総合討論

【17:05-18:15】 総会 Zoom A会場

【18:30-20:30】オンライン懇親会 Zoom A会場

オンライン懇親会に予約は必要ありません。2022年年会に参加登録された方ならどなたでも参加できます。参加される方は、年会専用サイトからA会場にお入りください。飲食物等は各自でご準備下さい。なお、オンライン懇親会ではブレイクアウト・ルーム（バーチャルな小部屋）を多数用意して使用しますので、参加を希望される方はZoomを最新版にアップデートしておいてください（viiiページ記載事項参照）。5.3.0より古いバージョンで参加された場合、どのブレイクアウトルームにも移動できず、プレナリ用のメイン会場に取り残されてしまうことになります。

7月2日（土）会場：Zoom

【10:00-11:15】一般講演 口頭発表1（A, B会場）

A会場	B会場
古脊椎動物の部（1） 座長：河部壮一郎	古生態の部 座長：田中源吾
A01 富谷 進・Paul Z. Barrett・Ashley W. Poust カリフォルニア州始新統産のニムラブス科化石と強肉食性食肉型類の台頭に関する考察	B01 西澤 輝・泉賢太郎 数理モデルに基づく海洋ベントスの糞食行動の要因の考察：中生代以降の摂食効率化の可能性
A02 松井久美子・Nicholas D. Pyenson・島添恒太・大橋智之 福岡県北九州市若松区千畳敷から新たに発見された哺乳類化石	B02 菊地一輝 紀伊半島南西部に分布する始新統音無川層群の堆積環境と生痕化石群集
A03 木村敏之 群馬県及び栃木県の中新統より産出したヨウスコウカワイルカ類化石	B03 瀬岡理子・松岡廣繁 肉食動物型 coprolite: その判別特性と形成モデル
A04 塚田 響・ロバート ジェンキンズ・佐藤 圭 ウミガメ類における寄生性フジツボ類・貝類による骨穿孔部位の修復様式	B04 吉永亘希・廣瀬浩司・前田晴良 獅子島に分布する“中部”白亜系御所浦層群から産出した <i>Nipponitrigonia</i> の生息姿勢の解析
	B05 椎野勇太・高階観乃・石寄美乃 腕足動物デイスキナ類に付着する表在生物から探るホストの生息姿勢復元と生物間相互作用

【11:15-12:45】休憩（A会場ブレイクアウトルーム）

【11:30-12:45】ランチオン小集会 Paleontological Research の出版方式の変更及びそれに伴う Zoobank への登録（A会場ブレイクアウトルーム1）

世話人：北村晃寿（静岡大学）・矢部 淳（国立科学博物館）

趣旨：Paleontological Research のオンライン版出版時期の変更の説明，Zoobank への登録手続きの詳細を説明する。

北村晃寿（静岡大学）：欧文誌オンライン版出版時期の変更に関する報告と Zoobank への登録

中野隆文（京都大学）：Zoobank への登録手続きの詳細説明

【12:45-13:45】一般講演 ポスター発表(コアタイム:奇数番号 12:45-13:15, 偶数番号 13:15-13:45 B会場各ブレイクアウトルーム)

- P01 三藤万琳・藤田和彦・富田武照 久米島阿嘉の転石から産出した板鰓類化石の多様性と生息環境
- P02 宮田真也・藪本美孝・西岡佑一郎・ジン・マウン・マウン・テイン・タウン・タイ・楠橋直・高井正成 ミャンマーの中新統オボゴン層から産出したサバ科サワラ族魚類
- P03 土屋祐貴・西松弘喜・氏原 温 中新統安中層群原市層産の硬骨魚類耳石化石
- P04 田邊佳紀・羽地俊樹・菅森義晃・渡邊克典・藪本美孝 鳥取県中新世魚類化石の新露頭の発見(予報)
- P05 関谷 透・小布施彰太・柴田正輝 下部白亜系北谷層(福井県勝山市)から新たに発見されたゴニオフォリス科の上顎骨
- P06 半田直人・加藤敬史・高橋啓一・北林栄一 大分県安心院地域から新たに産出した鮮新世サイ科化石
- P07 近藤洋一・田中清・竹前和幸・畔上宏夫 3D データスケール付与プログラムをもちいたフォトグラメトリーによるナウマンゾウ化石の計測と課題
- P08 尾崎 薫・森田直樹・中島保寿・長岡 徹 東京都昭島市の上総層群小宮層から産出した海生哺乳類化石群
- P09 長野あかね・一島啓人 ヌマタネズミイルカの全身復元骨格作製—最新研究に基づく復元の再検討—
- P10 上村真優子・長谷川 卓 福井県大野市上半原地域田茂谷に分布する手取層群の安定炭素同位体比層序
- P11 吉村太郎・佐々木猛智・中山健太郎・安里開士・野田芳和 恐竜時代の二枚貝 *Trigonioidea* は海から来たのか、陸水から来たのか? : 有機質化石を用いた古異歯亜綱の分類学的提唱
- P12 千徳明日香・稲葉直哉・大塚 光・徳田悠希 沖縄県浜比嘉島に分布する島尻層群から産出したイシサンゴ化石
- P13 海野 奏・牧村祐樹・佐野晋一 現生キタクシノハクモヒトデの移動痕と休息痕再訪—水中ドローンによる観察と実験室での生痕形成実験—
- P14 酒井佑輔・中山健太郎・安里開士 福井県勝山市枋神谷の下部白亜系手取層群より新たに発見された軟体動物化石
- P15 小沢広和・Smith, R. J.・川嶋溪五・中井静子・中尾有利子 アクアリウム環境の現生淡水生貝形虫 *Pseudostrandesia* 属 1 新種と古生物学的意義
- P16 新山颯大・神谷隆宏・田中源吾・藤田和彦 琉球列島における大陸系遺存介形虫とその古生物地理学的意義
- P17 長田晴樹・入月俊明・奥村 裕・増田義男 宮城県女川湾における現生貝形虫群集
- P18 中野太賀・岩谷北斗・鈴木克明・板木拓也・久保 観・佐々木聡史 トカラ列島周辺海域における現生貝形虫群集
- P19 山口龍彦 貝形虫群集と現生アナログ法による古水深推定の妥当性
- P20 山田 桂・中村彰男・入月俊明・後藤隆嗣・宇都宮正志 後期鮮新世における貝形虫化石を用いた日本海の古海洋変遷
- P21 平野友心・Tang Shuangning・長田圭介・山田 桂・宇都宮正志・田中裕一郎・神谷隆宏 富山県に分布する鮮新統～更新統十二町層における古環境変遷
- P22 山下裕輝・北村晃寿 静岡県下田市の沿岸低地における完新世の古環境変遷
- P23 木村由莉・松井久美子 フォトグラメトリーが生み出した課題:博物館の観覧規則の抜け穴が招く展示標本の「デジタル流出」

高校生ポスターセッション

- HP1 佐々木琳都 クモヒトデ骨片化石を使用した小野川周辺の古環境の推定
- HP2 清 一凜・後藤たける・竹内章陽・竹内優輝・田村 双・園田遥希・佐藤孝俊・小島怜音・阿部田聖真・加藤有起・大橋一步・竹内志樹・本美凜空・鹿児島一成 師崎層群食堂

【13:45-14:00】休憩

【14:00-15:30】一般講演 口頭発表2 (A, B会場)

A会場	B会場
古脊椎動物の部 (2) 座長: 中島保寿	分類・古生態の部 座長: 泉賢太郎
A06 平山 廉・河部壮一郎・對比地孝亘 手取層群大黒谷層(前期白亜紀)産潜頸類の頭骨形態	B06 江崎洋一・岸田明生・竹田裕介・足立奈津子・刘建波・伊庭靖弘 カンブリア紀サンゴ <i>Cambroctoconus</i> の原地性生活様式の三次元復元—隠棲生息場に即応した無性増殖と群体成長—
A07 辻野泰之・小布施彰太・中尾賢一・柴田正輝・河部壮一郎・東 洋一・関谷 透・藺田哲平・築地祐太・中山健太郎・小笠原憲四郎 徳島県勝浦町に分布する下部白亜系立川層の恐竜化石発掘調査	B07 吹本 樹・近藤康生・中尾賢一 鳴門海峡の最上部更新統産 <i>Mizuhopecten tokyoensis</i> (二枚貝: イタヤガイ科)の季節的微小殻成長とその生息環境
A08 柴田正輝・辻野泰之・小布施彰太・中尾賢一・関谷 透・築地祐太・中山健太郎 下部白亜系立川層(徳島県勝浦町)から発見された イグアノドン類の尾椎	B08 長井裕季子・椿 玲未・藤田和彦・豊福高志 有孔虫 <i>Sorites</i> sp.の形成途上の磁器状石灰質殻の微小構造観察
A09 大藪隼平・小林快次 夕張市産ヨロイ竜類頭骨化石の内部構造の復元	B09 豊福高志・長井裕季子 pH等可視化と電子顕微鏡観察から迫る底生有孔虫の殻形成過程
A10 榊 帆希・ダニエラ E. ウィンクラー・久保 泰・平山 廉・鶴野 光・宮田真也・遠藤秀紀・佐々木和久・滝沢利男・久保麦野 久慈層群玉川層(後期白亜紀)産竜脚類歯化石の 三次元マイクロウェア解析	B10 高木悠花・仲村康秀・齊藤宏明 現生浮遊性有孔虫と共生藻のパートナーシップ

【15:30-16:00】休憩

【16:00-17:15】一般講演 口頭発表3 (A, B会場)

A会場	B会場
古脊椎動物の部 (3) 座長: 藤原慎一	古生態・古植物の部 座長: 矢部 淳
A11 松岡廣繁・長谷川善和 群馬県中新統原市層産 <i>Annakacygna hajimei</i> (無飛翔ハクチョウ)の特異な上肢筋骨格系とその機能	B11 森野善広・安藤寿男・田口翔太 上部ジュラ系小池石灰岩の堆積相と生物相:炭酸塩バリアーラグーンシステムにおける5回の海退-海進サイクル
A12 青塚圭一・中島保寿・林 昭次・秦はるか・疋田吉識・佐藤たまき・遠藤秀紀 ヘスペロルニス類のロコモーション—足根中足骨骨幹の形態解析—	B12 安藤寿男・大森 光 福島県双葉層群(上部白亜系:コニアシアン~サントニアン)の 海生化石層のタフオノミー
A13 久保孝太・小林快次・Tsogtobaatar Chinzorig・Khishigjav Tsogtobaatar モンゴル・バルンゴヨット層(上部白亜系)から産出した新しいアル バレッツサウルス科化石から探る走行性と敏捷性の適応と多様化	B13 鳥井夏希・渡辺正巳・入月俊明・山田 桂 新潟県胎内市の鮮新-更新統鍬江層上部 における花粉化石群集(予察)
A14 小林快次・高崎竜司・アンソニー フィオリロ・チンブリグ ツォクトバートル・疋田吉識 北海道中川町オソウシナイ層から発見されたマニラプトル類化石の再研究とテリジノサウルス類の末節骨の進化と機能への示唆	B14 Julien Legrand・山田敏弘・西田治文 北海道蝦夷層群三笠層から発見されたノルマポレス型花粉と被子植物の初期進化について
A15 犬塚則久 竜脚類の体形と歩容の運動学的考察	B15 山田敏弘 石川県金沢市南部に分布する中新統犀川層および小寺山層から産出した植物化石

【17:15-17:30】ポスター賞表彰式 (A 会場)

ポスター表彰式の後，A 会場のブレイクアウトルームを開放します．議論・懇親の場としてご利用ください．

7月3日 (日) 会場 : Zoom

【10:00-11:30】一般講演 口頭発表 4 (A, B 会場)

A 会場	B 会場
形態解析の部 座長: 椎野勇太	古環境の部 座長: 高木悠花
A16 坂上莉奈・藺田哲平・服部創紀・河部壮一郎・柴田正輝・平山 廉 耳形態から化石カメ類の生息環境を推定するための指標	B16 佐々木聡史・入月俊明・板木拓也・徳田悠希・石輪健樹・菅沼悠介 東南極における現生貝形虫分布と環境要因の関連性
A17 結城和久・木嶋純大・海野徳幸・結城日和 CFD シミュレーションによる翼竜の飛行能力についての検討	B17 入月俊明・川上遼平・赤對紘彰・山田 桂・廣瀬孝太郎・瀬戸浩二・野村律夫・河野重範 小氷期以降の中海における貝形虫群集の時空分布
A18 大和田瑞貴・鈴木雄太郎・生田領野 460Ma の 'flat world' 適応視覚: アサフス三葉虫 <i>Pseudomegalaspis patagiata</i> の複眼機能形態	B18 鬼塚翔暉・藤田和彦・寺田和雄 新里層産材化石に基づく後期鮮新世から前期更新世における琉球弧陸域の古環境・古植生の再検討
A19 山田晋之介 カイミジンコ亜綱における大顎筋-骨格系の二重機能	B19 黒柳あずみ・川幡穂高・尾崎和海・鈴木 淳・西 弘嗣・高嶋礼詩 白亜紀の海洋無酸素事変 (OAE) が浮遊性有孔虫の進化傾向に及ぼす影響の検証
A20 生形貴男 アンモノイドの個体発生変異と成長タイミング	B20 長谷川卓・後藤(桜井)晶子 C40 アルケノン不飽和度指標に基づく白亜紀のインド洋南半球高緯度域の古水温変動
A21 大野理恵・江崎洋一 出芽個体による群体全体の成長方向の臨機応変な維持—キサソゴ科無藻性サンゴにおける例	B21 川幡穂高 DNA に記録された人口変動と、この手法を応用した気候変動の生物個体数への影響評価の可能性

【11:30-13:00】休 憩 (B 会場 ブレイクアウトルーム)

【13:00-14:30】 一般講演 口頭発表 4 (A, B 会場)

A 会場	B 会場
<p>分類の部</p> <p>座長:山田晋之介</p>	<p>生層序・地史の部</p> <p>座長:足立奈津子</p>
A22 大山 望・新山颯大・今井拓哉・福富孝義・野原政典・高橋文雄 上部白亜系阿武層群長門層から産出する昆虫化石	B22 田中源吾 古生代の日本列島の位置について(予報)―浅海性介形虫群を例に
A23 相場大佑 白亜紀の異常巻アンモノイド <i>Ryuella undulosum</i>	B23 堀 利栄・河村淳平・田村哲平・近藤康生 四国西部黒瀬川帯岡成層群におけるシルル紀三葉虫化石含有露頭の再発見と古生物学的検討
A24 松原尚志 北海道中頓別地域の暁新統函淵層奥宇津内部層から産出した マレハリナデシコ属(二枚貝綱:イタヤガイ科)の一種について	B24 石田昂汰朗・北村悠樹・権藤洗人・深瀬芙紅・吉田壮志・鈴木寿志 京都市左京区岩倉川のチャートの三疊紀放散虫年代とマイクロスフェリユールの発見
A25 濱田真実・入月俊明・宮田真也・瀬戸浩二・辻本 彰 島根県東部の中新統成相寺層から産出した魚鱗化石	B25 白坂唯斗・本山 功 北海道白糠丘陵における上部漸新統～下部中新統の放散虫化石層序
A26 中村大亮・塚越 哲 内湾性貝形虫 <i>Bicornucythere bisanensis</i> (Okubo, 1975)における形態学的多様性と同属未記載種 1 種の報告	B26 松岡 篤 生層序対比マーカークの条件とジュラ・白亜系境界にかかわる放散虫マーカーク候補
A27 田中如樹・千徳明日香・清水啓介・徳田悠希・黒木拓実・藤井琢磨・中口和光・山口修平・近藤裕介・大塚 攻 ホシムシ共生型インサンゴ類の系統分類学的研究	

【15:00-17:00】 友の会イベント Zoom (A会場)

「古生物学実践講座―化石の写真撮影方法―」

講師:ロバート・ジェンキンス(金沢大) 事前申し込み不要(年会への参加登録は必要です)

化石友の会の会員の中には将来古生物学者になりたい方や学者ではないが自分で化石を研究したい方が多くいるかと思えます。古生物学の研究には様々なものがありますが、その中でも今回は化石の写真撮影方法について、具体的にお話します。

プロの研究者は一眼レフやフルサイズCCDを搭載したミラーレスカメラなどの高級機を使いますが、例えばスマホなどでもちょっとした工夫で化石の写真が「標本写真」になります。特に注意を払うべきは光の当て方です。光の当て方によって、化石の持つ立体的な特徴や微細な形質を浮きあがらせることができます。今回の講座では、特に化石標本への光の当て方に着目しつつ、古生物学における写真撮影方法を学びましょう。

***** 3. 発表方法及び機器についての注意事項など *****

<口頭発表をされる方へ>

- ・口頭発表では、ご自身でZoomの画面共有を行って頂きます。
- ・Zoomで講演するためには、マイクとスピーカー付きの端末が必要です(内蔵外付け不問)。
- ・Zoomへの接続時にはかなりの通信量が発生します。回線が細いと(上り10 Mbps以下等)接続が不安定になる恐れがあります。発表者をご自身の責任で接続環境を確保して下さい。
- ・Zoomの使用に不馴れな発表者の方は、事前にZoomテストミーティング (<https://zoom.us/test>) に接続して接続試験を実施しておいて下さい。この接続試験は、お使いの端末での接続環境 (Zoomの起動、スピーカーとマイク) を確認していただくものです。Zoomの操作方法については、下記の簡易マニュアルをご参照ください。

http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual_simple.pdf

- ・ご自身の講演の順番になったらスライド画面を共有して下さい。次の演者に替わる際には速やかに「共有の停止」を押して下さい。
- ・共有画面の画角は4:3でも16:9でもどちらでも構いません。
- ・**シングルモニターのノートパソコンでのスライドショーの共有方法：**
 - 方法1) 「画面の共有」から、PowerPointを選択・共有した後に、スライドショーを開始。
 - 方法2) まず全画面表示のスライドショーを開始し、その状態でAlt+Tab (Windows) または Command(⌘)+Tab (Mac) のキーを押してZoomに画面を切り替え、「画面の共有」で「PowerPointスライドショー (+ファイル名)」を選択して「共有」ボタンを押す。
- ・Zoomへの接続やパソコンの操作は、発表者ご自身でお願いします。
- ・一般講演の口頭発表時間は15分です(質疑応答、画面共有操作の時間含む)。
- ・講演中は、時計をタイムキーパーのビデオに表示し、ご自身で残り時間を確認して頂く予定です。サムネイルビデオを非表示にすると時計が見えなくなるので、ご注意ください。

<ポスター発表をされる方へ>

- ・ポスターファイルは、10MB以下のPDFとして作成して下さい。縦横比は問いません。参加登録をお済ませいただいた上で、6月17日(金)までに、以下の専用サイトにログインして「ポスターアップロード」ボタンからファイルをアップロードして下さい。

<https://palaeo2022.award-con.com/LOGIN.php>

- ・コアタイムには、講演毎にZoomのブレイクアウトルームを割り当て、その中で参加者と議論して頂きます。ブレイクアウトルームを利用するために、Zoomを最新版にしておいて下さい。ブレイクアウトルームで資料等を画面共有して頂くこともできます。

発表方法に関する問い合わせ先

行事係：生形貴男(京都大学) E-mail : ubukata@kueps.kyoto-u.ac.jp

その他

- **懇親会について**：本プログラム iii ページ参照。
- **録画・撮影について**：発表者の許可なく講演を録画・保存・撮影することを禁止します。
- 演者以外はマイクとビデオをミュートして下さい。チャットも濫用しないでください。
- **予稿集について**：2022 年年会では予稿集の冊子体は配布しません。学会 HP から PDF をダウンロードしてご利用ください。また、会期中には年会専用サイトからも各講演の要旨をダウンロードできるようにします。
- **Zoom のインストール**：本オンライン年会では、Zoom というアプリケーションを使います。Windows 7 以降、Mac OS 10.9 以降の OS で使えることになっています。参加される方は、ご自身で事前に Zoom をインストールして下さい。Zoom は以下の公式ダウンロードセンターから入手できます。

https://zoom.us/download#client_4meeting

パソコンにインストールする場合は、上記ページの一番上に配置されている「ミーティング用 Zoom クライアント」のダウンロードボタンを押してファイルを保存して下さい。Windows からアクセスすると ZoomInstaller.exe、Mac からアクセスすると Zoom.pkg がダウンロードされます。Windows10 の場合、上記ファイルを実行するだけでインストールが終了します。Mac にインストールする場合は、以下のサイト等を参考にして下さい。

<https://zoom-support.nissho-ele.co.jp/hc/ja/articles/360023068011-Mac>

2020 年 12 月以降にダウンロードした場合アップデートの必要はありません。Zoom がインストールされている端末であれば、年会専用サイトから各会場へアクセスできます。専用サイトの利用方法については、下記の簡易使用マニュアルをご参照下さい。

http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual_simple.pdf

- **Zoom の最新版へのアップデート**：本年会では、懇親会やポスター会場、昼休み等にブレイクアウトルームを設け、参加者同士の議論・懇親の場として利用して頂く予定です。ブレイクアウトルームに参加者自身が行き来するためには、Zoom のバージョン 5.3.0 以上が必要です。それより古いバージョンをお使いの方は、事前に最新版にアップデートしておいてください。アップデートには Zoom アカウントが必要です。お持ちでない方は、<https://zoom.us/> から Zoom の公式サイトにアクセスして、ページ右上「サインアップは無料です」をクリックし、表示に従ってサインアップしてアカウント（無料でも可）を作成して下さい。アカウント作成後、Zoom を起動して「サインイン」を選択、登録したメールアドレスとパスワードを入力してサインイン、右上に小さく表示されているプロフィールボタン（マウスを当てると「利用可能」と表示される）からプルダウンメニューを表示させて、「アップデートを確認」で最新版にアップデートできます。
- 2022 年年会・総会は登録も講演も参加も全てオンラインです。技術的な個別のお問い合わせには学会として対応できませんので、ご自身の責任でご準備の上ご参加ください。